

資料1

第3回 草津市健幸都市づくり推進委員会意見について

番号	委員質疑・意見内容	
総論		
1	用語解説	○用語解説は、用語と同じページに記載して、すぐ分かるようにしてほしい。
2	主要事業の掲載	○第4章の白枠内に掲載する事業は、現在実施中なのか、関連計画で実施中の事業も入っているのか、この計画により新しく掲載していくものがあるのかがわからない。目標も併せて、しっかり仕分けをしておいた方がよい。
3	基本方針	○基本方針の目標の達成が、健康寿命の延伸にどのように結びつくのかを、文章で補足してほしい。
4	進捗確認	○計画策定後の進捗確認について掲載してほしい。

番号		委員質疑・意見内容
まちの健幸づくり		
6	項目名	○「まちの健幸づくり」の「(2)安全安心に配慮した公共空間の整備」という表現は、漠然としていて掴みにくい。
7	中心市街地	○中心市街地の活性化は、国が郊外への大型店舗の進出を規制しない限り難しいのではないかと。
8		○市街地の活性化の話があったが、本当に市街地の人々が何を望んでいるのか知りたい。草津の取り柄とするもの、草津の場所を最大限に生かせるもの、草津の顔となるものなど、住民の中から湧いてくるイベントなどがあるとよい。
9	公園	○今一番遊び場に困っているのは、小学校高学年や中学生。ボール遊びを制限なくできる場所を提供してほしい。
10		○若い母親から、不審者等が心配で子どもを公園で遊ばせたくないという話があった。不審者対策など、安全面についても考えていただきたい。
11		○準公園という、民間の土地を借りて公園にするという制度は検討しないのか。

番号		委員質疑・意見内容
ひとの健幸づくり		
12	重点化	○あらゆるものが網羅されているので、重点化して効果的に推進した方がよい。運動分野なら、有酸素運動でいえばノルディックウォーク、筋トレなら健康バンドなど、推奨プログラムを示す。埼玉県では、県全体の推奨プログラムがあり、それに基づいて市が動いている。草津市でも市全体で目標を作り、各地域に合った取組を行ってはどうか。鳥取県では「ウォーキング立県を目指す」としてシンボリックなものを出している。草津市としても、シンボリックなものを打ち出していないといけない。
13	運動の習慣化	○運動で大事なものは、継続すること。単発のイベントだけでは、習慣的な運動にはつながらない。遊びを習慣化できるような仕組みづくりによって、子どもたちが健康になっていく。運動は家の中でもできるので、近隣の施設の活用も考えられる。
14		○健康づくりの継続は、自分のために何をすればよいかという思いがないと成り立たないので、動機づけをまとめたような区分があってもよい。健診結果は問題がなくても、体力が低下している人は多く、それを把握する機会があれば、動機づけにつながるのではないか。
15		○子どもの運動離れが言われている。子どものときに運動しなかったら、大人になってもしない。運動や遊びができる仕組みづくりを計画に盛り込むことが必要。スポーツ少年団については、競技だけではなく、継続した運動習慣や心の健康づくりへの取組も必要であると感じた。
16	継続・機運醸成の仕組みづくり	○継続できる仕組みづくりや、計画を市民がどれだけ認識しているかを理解したうえで気運を高めていく仕組みづくりが必要である。
17	年齢区分	○ライフステージの青年期が15～24歳となっているが、喫煙や飲酒が禁止されている未成年と、そうでない成人が同じ区分になっていることに違和感がある。
18	高齢期	○健診データの分析とあるが、市の健診データからは生活習慣病のデータしかでてこない。ロコモティブシンドロームについては健診項目に含まれていない。費用の問題もあるだろうが、骨粗しょう症に対する骨年齢測定等、健診内容を充実してほしい。
19	数値目標	○ひとの健幸づくりの数値目標と、全体的な指標である健康寿命との整合性がわからない。指標を選んだ理由の記載が必要。
20		○特定健診受診率の目標数値の60%は高過ぎる。達成できる数値にすべき。

番号		委員質疑・意見内容
しごとの健幸づくり		
21	草津ブランド	○草津ブランドや地産地消の取組など今実施していることは書かれているが、その他の取組が一行もない。新たなイメージなどはないのか。
22	ヘルスケアビジネス	○ヘルスツーリズムの「ビワイチ」がもっと盛んになるためには、草津市だけではなく県全体で取り組まなければならない。草津市として「ビワイチ」を推進するためには、宿泊や入浴施設等の拠点・設備づくりを進めていただきたい。
23		○ノルディックウォークについてもっと掲載してほしい。高齢者が頑張っている姿をみせることで若い人も一生懸命生きようと思うのではないか。自転車には乗れない人もいますので、誰でもできること、一番弱い人が頑張れる仕組みを作ってほしい。
24	企業連携	○企業・会社として、健診をすすめたり、健診結果をチェックしたりすることは大事。
25		○たばこの害について、いかに認識を高めていくか。
26	広報	○野菜の摂取量のデータ等、市民が関心を持って挑戦できるよう、効果的な広報を目指す視点が大切である。